

介護職員初任者研修 講師派遣報告書

(医療法人 翔樹会)

2025/10/20

このたび当法人では、株式会社ヒューマンクリエーション主催の「介護職員初任者研修」に、講師として5名の職員を派遣いたしました。本研修は令和7年6月29日から10月12日までの毎週日曜日に開催され、ネパール・スリランカからの特定技能生と日本人の計12名が受講しました。会場では三か国の言葉が飛び交い、文化や背景の異なる受講生が互いに助け合いながら学びを深める姿が印象的でした。国際色に富みながらも、介護という共通の目的が一体感を生み、熱意と笑顔に満ちた学習環境となりました。

医療や介護の専門用語は、日本人であっても理解に時間を要するものです。講師陣は、その言葉の壁を乗り越えるため、資料の翻訳や説明方法の工夫を重ねました。日本語教材をネパール語・シンハラ語に訳したり、英語を交えながらジェスチャーで補足するなど、日々試行錯誤を重ねながら授業を進めました。時には、受講生の文化背景を理解するために自ら学ぶ時間を設けるなど、まさに“伝える努力”を惜しまない姿勢が見られました。こうした経験は、講師自身の成長を促し、教育の重要性を再確認する貴重な機会となりました。

当法人では、教育を通じて法人内のケアの資質を高めることを理念の一つとして掲げています。講師派遣や喀痰吸引研修、実務者研修などを積極的に引き受け、教育機会を法人全体の成長の糧としています。人に教えることは、単なる知識の伝達ではなく、自らの業務を見直し、より深く理解するきっかけとなります。また、教育の現場に立つ姿は、後輩職員にとって大きな刺激であり、背中で学ばせるリーダーシップの実践でもあります。教育の現場で真摯に向き合う講師の姿は、法人の“学び続ける社風”を象徴しています。

一方で、アカデミックな理論と現場実践の間には、しばしばギャップが存在します。当法人では、理論を単に受け入れるだけでなく、現実の介護現場に即した形にどう落とし込むか、そのプロセスを日々検証・改善しています。現場で生まれる課題に対し、安易な妥協や近道を取らず、常に「正攻法」で解決する姿勢を大切にしています。これは、私たちが「悪しき方向に流されない」ための法人としての信念であり、教育現場にも一貫して息づいています。

講師の一人は、「自分の教え子が、介護の現場で成長し、利用者に笑顔で接している姿を見ることが、教育者として何よりの喜び」と語っていました。その言葉は、教育の本質が“教えること”ではなく“共に成長すること”にあるという気づきを与えてくれます。異なる文化や価値観を持つ人々と共に学び合うことは、介護職員としての専門性だけでなく、人としての豊かさを育むものでもあります。今後、外国人特定技能生の受け入れはさらに拡大が見込まれます。国籍や言語の違いを超えて信頼関係を築くためには、講師自身の多文化理解力と柔軟な発想が求められます。資料作成や指導法も、より多言語・多様化への対応が必要となるでしょう。そこには課題も多いものの、講師たちは「創意と工夫を重ねる過程こそが成長である」と前向きに捉えています。

教育は法人を映す鏡です。翔樹会は、教育を通じて人を育て、人を通じて法人を育てるという理念のもと、流行や風潮に流されることなく、誠実で持続的な成長を目指します。これからも、職員一人ひとりが学び続け、現場で実践を重ねることで、地域社会に信頼される法人として歩みを進めてまいります。

